

世代間交流におけるバイクツーリングの魅力

梅澤ゼミ 4年 望月祐介

1. 研究の動機・目的

現代の日本では人と人とのコミュニケーションが薄れてきており、それに伴い世代間交流が減少している。近年より騒がれているこの問題は未だに明確な解決策は見つかっていないように思える。そのような中で私が提案したいことがバイクツーリングを通じた世代間交流である。

なぜ私が今回バイクツーリングに目を付けたかといえば自身の実体験から可能性を感じたからである。私自身オートバイに乗っていることもありバイクツーリングによく出かけるが、友人はもちろん本来接点のない他の年代の方たちともバイクツーリングへ行くことがよくある。バイクショップでのツーリングイベントに参加したり知人の友人に誘われたりとその機会は様々ではあるが幅広い年齢層の方たちとも関わる事ができた。

私がこの実体験をもとに感じたことは、バイクツーリングにおいては例え年代が違っててもそれを気にする要素があまり感じられないということだ。例を挙げるとするならばオートバイに乗っているという共通の話題を持っていることから年代が違う人とも気軽に会話をすることができることや、バイクツーリングという同じ時間を共有している中でも互いに違うオートバイに乗っていることから自分の時間を楽しむことができるため人と人の距離感が最適だということである。

そこでバイクツーリングによって世代間交流を活性化することができないかを調査・分析を行い、新たな世代間交流デザインを考えていきたい。

2. 先行研究の検討

今後検討していく予定。

3. 調査概要

1. バイクショップへの聞き込み調査

実際にバイクツーリングイベントを企画運営している方たちへお話を聞く。

なお、質問事項は検討中。

2. ヒアリング調査(アンケート調査)

バイクユーザーに対してアンケート調査を行う。

方法、内容は検討中。

4. 今後のスケジュール

7月：SRC 発表

8月：聞き取り調査質問内容検討

9月：聞き取り調査実施、分析、アンケート調査の資料作成

10月：アンケート調査実施、分析

11月：アンケート調査のまとめ、結論、今後の課題

12月：清書、論文完成

5. 参考文献

奥山清行 「伝統の逆襲 日本の技が世界ブランドになる日」 2007年

門脇厚司 「子供の社会力」 1999年